

# わたしの旅

## Visit Bangladesh before tourists come!

渡辺節子(千葉県市川市)

私は学生時代にサリーを軽やかに着こなしたインド人女性から通訳のお礼にとインドの詩聖ラビンドラナート・タゴールの詩集をもらいました。以来ベンガル語を使う人々に憧れを抱いてきました。タゴールがノーベル賞を受賞した1913年にはインドは英国の植民地でした。1947年にインドとパキスタンの二つに分離独立、東ベンガル(バングラデシュ)はパキスタンに参加しました。しかし母国語ベンガル語を使うことを許されず、諸々の不満が爆発、1971年にバングラデシュとして独立を勝ち取りました。

タゴールが作詞した‘My golden Bengal, I love you.’ **"Amar Sonar Bangla"**はバングラデシュの国歌になり、今でもベンガル人が集まると必ず唱和します。彼らは母国語ベンガル語を守るために300万人の犠牲者を出してまで独立を勝ち取った国は世界で唯一だと誇らしげに語ります。

バングラデシュは観光客のいない国です。インドとミャンマーとインド洋と無数の水路に囲まれた日本の4割ほどの土地に1億7千万人が住み、人口密度世界一ですから、旅行会社は国内旅行者を捌くので手一杯、手間のかかる外国からの観光客を誘致する余裕も必要もないのです。気がついたら観光客のいない国になっていた。そこで国が慌てて掲げたスローガンは‘Come to Bangla before tourists come.’です。観光客が来ない空いているうちに来てね!です。

ビジネスで訪れる中国人はいますが、観光客がいないのです。歩いているとあっという間に若者達に囲まれ、セルフで‘一緒に写真撮ろうよ。’と話しかけられます。人懐こく、外国人が珍しくて、特に日本人が大好きなのです。水路の多いかの国の橋は全部日本の寄付です。世界一多額のODAで援助しています。

私は2014年2月と今年4月の2回にわたり、バングラデシュ観光省 Bangladesh Tourism Board(BTB)の視察団の一員として全土を各12日間限なく旅しました。

10カ国26人の異なる国々の専門家と共通の話題で意見交換できたのも貴重な異文化体験でした。

5年前の訪問時には4つの世界遺産、手つかずの自然の美しさ、イスラム、仏教、ヒンドウ教その他の遺跡群、世界一のマングローブの森、世界一長い白砂の海岸線、牛馬山羊鶏が人間と共存する村落、ミャンマーとの国境の丘陵に住む少数民族の生活、カオスのような街並み、それにダッカでの格安の買い物に魅了されながらも、凸凹道路でのひどい交通渋滞のために、シニア世代をお誘いするのはやや時期尚早と逡巡していました。

今回のツアーはコースを吟味した上に、道路事情も5年の間に見違えるようによくになり、空路を使ったためにスムーズに移動できました。交通渋滞はほぼ解消です。ダッカの免税店アロンもより充実した品揃え、買い物だけに行ってもいいなあと思っています。

観光客の押し寄せる前にいくなら今です!

GDP伸び率が一年8%、中間年齢27歳(日本は48歳)、人口密度は日本の3倍。1億7千万人弱が日本の4割ほどの面積に住んでいます。国中が沸騰点にいるように熱く滾っています。5年もするとインフラが整備され、観光客で溢れると思います。

農業人口が6割以上なので水稻、陸稻の畑、高地では茶畑、村は狭い路地に入るとまさにフォトジェニック、同行の写真家達は夢中になって撮影していました。

私も無意識に撮影したものを後で見ると、どれもがカラフルで生き生きとしています。

世界中150国を私は旅しましたが、こんなに色彩感覚が優れた民族はいません。色とりどりの布切れを無造作にまとった人々、町中が極彩色のアート、アートです。リキシャからバイクから、屋台から色が乱舞していて、うるさくない国は他にありません。イタリアもフランスも負けず。

ここには不思議な魅力があり、西側の基準だと単なる街も村も「汚くて人ごみだらけのスラム」という感覚ですが、この体験したことのないカオスは、「生き

るエネルギー」をくれます。元気をくれます。ぜひ行ってみてください。

クアラランプール乗り継ぎでダッカまで正味片道10時間、時差マイナス3時間です。

◆ 旅行記と写真は下記をご覧ください ◆  
<http://www.shejapan.com/blog/>



世界遺産シュンドルボン Sundarbans

カワウソで魚を釣っている漁師。ベンガル湾に注ぐガンジス川、プラマプトラ河、メグナ川のデルタ地帯に形成された世界最大のマングローブ林(1400平方キロ)。世界遺産インドのスンドルバンス国立公園の境界に隣接している。260種に及ぶ鳥類やベンガルトラ、ワニ、ニシキヘビなどの生息地。



世界遺産パハルプールの仏教寺院遺跡群  
(8.5-9世紀) Paharpur

かつては177の僧院、72の台座、中座、仏舍利塔が存在し、1000人もの僧を収容することが出来たが、現在はレンガ造りの基礎と周壁のみ残っている。ミャンマーのパガン遺跡やインドネシアのボロブドゥル寺院遺跡群、カンボジアのアンコール遺跡に多大な影響を与えた



町の中心で山羊を曳く少年 @Rajshahi

インドとの国境バングラデシュ西部の中心の街バングラ第4の都市ラジシャヒ（人口65万人）で、のどかなものです。



地図